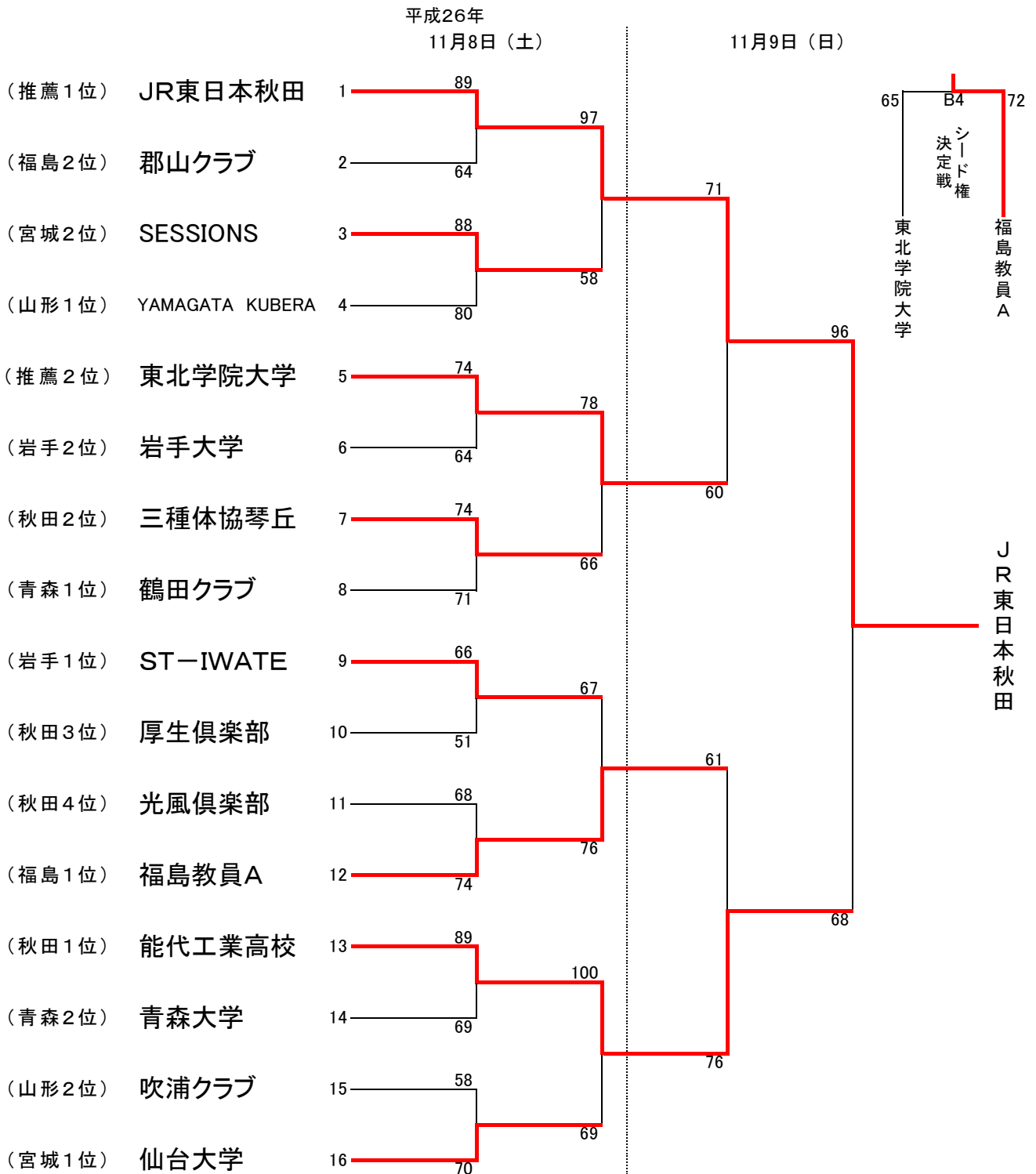


第69回東北男女総合バスケットボール選手権大会

兼 第90回天皇杯・第81回皇后杯全日本総合バスケットボール選手権大会東北地区予選会

男子の部



大会名 Competition	第69回 東北男女総合バスケットボール選手権大会 兼第90回 天皇杯・第81回皇后杯全日本総合バスケットボール選手権大会 東北地区予選会
男子決勝	Year Month Day Time 2014 年 11 月 9 日 13 : 55
場所 Place	秋田市立体育館



秋田県バスケットボール協会

チームA J R 東日本秋田 96 ○	<table border="1"> <tr><td>27 1st 11</td></tr> <tr><td>19 2nd 17</td></tr> <tr><td>27 3rd 11</td></tr> <tr><td>23 4th 29</td></tr> <tr><td>OT</td></tr> </table>	27 1st 11	19 2nd 17	27 3rd 11	23 4th 29	OT	チームB 能代工高 68 ●
27 1st 11							
19 2nd 17							
27 3rd 11							
23 4th 29							
OT							

主審:Referee
片寄 達 宮城

副審:Umpire
佐藤 匠 秋田
植田 浩司 福島

テーブルオフィシャル:Table officials
秋田県バスケットボール協会TO委員会

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
0	×	畠山 純也		8	0	4	0	0	4	／	長谷川 暢		25	4	5	3	3
1	／	若月 徹		1	0	0	1	1	5	×	荒木 直	CAP	4	0	2	0	1
3	／	斉藤 奨		10	2	2	0	1	6	／	中村 碧杜		8	0	4	0	5
7	／	工藤 鉦介		2	0	1	0	0	7		渡邊 竜也		-	-	-	-	0
9	×	石橋 拓	CAP	24	0	12	0	1	8		藤谷 洋人		-	-	-	-	0
11	×	一戸 祐也		2	0	0	2	1	9	×	小室 望海		16	2	4	2	1
12	×	根岸 城二		10	0	5	0	2	10	×	斉藤 大輔		8	0	3	2	2
13	／	佐藤 哲郎		4	0	2	0	1	11	／	金久保 翔		0	0	0	0	1
18	／	佐々木 恭		2	0	1	0	0	12		猪狩 涉		-	-	-	-	0
24	／	高橋 純		8	0	3	2	1	13	×	藤原 健人		0	0	0	0	1
26	／	平塚 貴将		3	1	0	0	0	14	×	盛實 海翔		0	0	0	0	0
33	×	佐藤 光		20	2	7	0	2	15		長谷川 翔		-	-	-	-	0
55	／	菅 佑喜		2	0	1	0	1	16	／	大高 祐哉		7	1	2	0	2
				-	-	-	-	0	17		長濱 宏治郎		-	-	-	-	0
				-	-	-	-	0	18		柴田 一真		-	-	-	-	0
				-	-	-	-	0	19		植村 太一		-	-	-	-	0
				-	-	-	-	0					-	-	-	-	0
				-	-	-	-	0					-	-	-	-	0
コーチ		柿崎 智弥							コーチ		佐藤 信長						
Aコーチ		黒政 成広							Aコーチ		栄田 直宏						
合計				96	5	38	5	11	合計				68	7	20	7	16

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P% イントシュート 2P:2P% イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

5年連続6回目の優勝を狙うJ R 東日本秋田と、18年ぶり15回目の優勝を狙う能代工業との男子決勝戦。

第1ピリオド：両チームともマンツーマンでスタート。J Rが#0畠山のシュートで先制すると、能代工業もすかさず#5荒木がシュートを決め、開始3分は一進一退の展開が続く。J Rのディフェンスが激しくなると能代工業の得点が止まり、J Rは#9石橋の連続得点で徐々に点差が広がる。残り4分、能代工業のタイムアウト後からディフェンスをオールコートプレスに変えて相手のミスを誘うが、リバウンドを支配したJ Rが主導権を握ったまま27-11で終了。

第2ピリオド：逆転したい能代工業はオールコートマンツーマンでプレスをかける。J Rは#9石橋、#33佐藤(光)を中心にオフェンスを組み立て、得点につなげていく。対する能代工業は#4長谷川を中心にオフェンスを組み立てていく。アウトサイド中心のオフェンスが目立つ能代工業に対し、J Rはインサイド、アウトサイドとバランスよく加点していく。このピリオドは両者互角の展開となり、前半を46-28とJ Rリードで折り返す。

第3ピリオド：巻き返しを図りたい能代工業は#16大高のシュートで先制するが、マンツーマンディフェンスがうまく機能せず点差が広がる。J Rはリバウンドからのファーストブレイク、アウトサイドシュートで確実に点差を広げていく。少しでも点差を縮めたい能代工業は選手交代を繰り返すが点数に結びつかない。73-39とJ Rがリードを広げ、ピリオドを終了。

第4ピリオド：追いつきたい能代工業はオールコートディフェンスでプレッシャーを強めるが、J Rは落ち着いてボール運び、合わせのプレー、インサイドアウトのシュート等で着実に得点していく。勝利への執念を見せたい能代工業は、#4長谷川、#6中村が奮起し、得点につなげていくが、終始J Rのペースは変わらず